

◆高梁市 新総合計画（2010-2019）における「農業の振興」

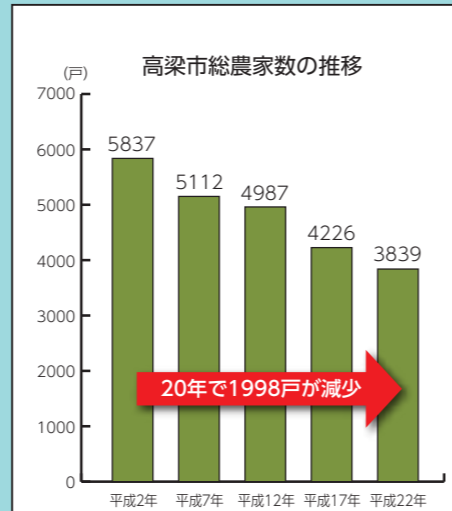
人口減少と少子高齢化への対応や集落機能の低下、基幹産業である農業の担い手不足と荒廃地の増加など、さまざまな課題を解決していかなければなりません。

「高梁市 新総合計画（2010-2019）」は、高梁市の現状と課題から「将来めざすべき高梁の農業の姿」を描いています。市は、その実現を永続的に進め、その達成に向け全力で取り組んでいきます。

現状と課題

- ・日本人の主食である米は、全国的に価格の低迷や消費量の減少といった課題を抱えており、農業所得の減少の要因にもなっています。
- ・輸入農畜産物の安全性が問われるなか、消費者の安全・安心への関心が高まり、安心して食べられる農畜産物の生産が課題となっています。
- ・農産加工グループ等では高齢化が進んでいることから、後継者の育成・既存商品の販路拡大・新商品の開発が課題となっています。
- ・小規模畜産農家は、後継者不足に加え、濃厚飼料等の高騰による経営の悪化から、廃業する農家が増加しており経営改善を図る必要があります。
- ・平地部が少なく、狭く不整形な農地が点在しているため、作業効率・生産性が悪く、農道・水路等の施設改良及び管理が重要となっています。作業効率・生産性を向上させるには施設の老朽化に伴う更新が求められています。
- ・水源かん養や水害防止機能を有する農地やため池等を保全し、防災力を向上させるため、適正・安全な管理が必要です。
- ・農業従事者の減少及び高齢化により、耕作放棄地や遊休施設（ハウス等）が増加しています。そのため後継者の確保・育成等が課題となっています。
- ・一部地域では農村生活体験の受け入れを行っていますが、まだ十分とはいえず、受け入れ可能な地域を増やし都市住民との交流を進める必要があります。
- ・野猪、野猿等の有害鳥獣による農作物被害が拡大しており被害防止対策の充実が求められています。

農家数の推移



資料：農家数は農林業センサス結果報告書

※農家：経営耕地面積が10アール以上又は10アール未満でも農産物販売金額が15万円以上の世帯

農業経営者の平均年齢

平成22年	
全国	65.8歳
岡山県	69.9歳
高梁市	71.5歳

将来めざすべき高梁の農業の姿

- ・地産地消の推進による、地元農産物の消費比率の向上。
- ・優良品種の導入や栽培技術のマニュアル化による、農作物の生産性と品質の向上。
- ・農業用施設の更新による、生産性・生活環境の改善。
- ・農用地利用集積の推進による、耕作放棄地の解消。
- ・幅広い年齢層の農業者による、地域行事の活性化。
- ・加工グループの後継者による、新たな商品の開発。
- ・都市住民との交流による、地域の活性化。
- ・有害鳥獣被害防止対策の充実による農作物被害の減少。

豊かな自然と気候に恵まれたこの土地で
高梁の農業を未来につなぐ

近年の社会経済状況の急激な変化に伴い、少子高齢化・過疎化等への対応や、農業・商工業等の産業振興、地域の活性化など多くの課題を抱えています。

少子高齢化社会を迎えた今、市の基幹産業である農業も、農業従事者の平均年齢が71.5歳（平成22年現在）（全国平均年齢66.1歳）と高齢化し、また、次世代を担う後継者不足や農家数の減少などが大きな問題となっています。全国でも水田集落・地域の半数以上で担い手がいない状況となっており、5～10年後には生産力が急激に落ち込み、耕作放棄地の増加を招くことが懸念されています。

農業・農村・農地は、将来にわたる食の安定供給を支えるだけでなく、その生産活動が土地の保全、水源かん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、さまざまな役割を果たしています。

「農業だけじゃ生活できない」と、農業に対する誤解もありますが、農業・農村の役割を一人一人が理解し、こうした抜本的な問題を解決していくことで、高梁の農業を次の世代に継承していかなくてはなりません。

■問い合わせ

農林課農業振興係

☎0223